

災害時の男女共同参画について今、考えよう

様々な立場の人が暮らす地域で、もし災害がおきたら…？ いざという時のために日頃からの備えが大切です。男女双方、多様な視点で防災について考え、行動することによって、見落としがちなニーズに気づくことができ、防災活動と災害時の担い手が増えることで被災時の困難・負担が軽減され、地域の防災力向上にもつながります。

これまでの災害時の困りごと

〈物資の不足・配布方法〉

- 女性用下着、妊産婦用の衣類、生理用品、育児・介護用品の不足
- 物資担当者は男性ばかりで、女性が物資を受けとりづらい・要望を出しにくい

〈プライバシー〉

- 仕切りがなく、雑魚寝が続く
- 着替えや授乳が安心安全にできない

〈様々な立場の人が抱える悩み〉

- 子どもが騒いで迷惑だと言われた
- 認知症の親が徘徊する
- DVの被害者に会わないか心配
- トイレやシャワーを利用しづらい

〈安全面での不安〉

- 屋外の仮設トイレは男女兼用で夜は暗い
- 見知らぬ人も多く不安
- 女性や子どもが暴力にあってしまう
- 相談しにくい

〈性別を理由とした固定的な役割〉

- 避難所の責任者は大半が男性で、負担が集中している
- 女性のみが炊き出しを長期間担当



“みんな”の視点でつくる避難所とは

なぜそうなったの？

地域の防災リーダーや行政職員などに女性職員が少ない、もしくは日頃社会や地域で活動していない女性が急に配置され上手く活動できず、多様な視点が反映されなかったことが考えられます。

この背景には、「防災や災害救援の活動は男性が担う力仕事であり、専門の知識が必要」、「緊急対応は長時間労働で男性が適任」といった無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)が影響していると推測されます。

→女性など多様な視点の欠落は、細かなニーズの把握や必要な物資の不足につながり、住民の避難生活にも影響を与えてしまう

女性など多様な視点が必要です

STEP 1

担い手に女性や若手を増やし、自主防災組織等に女性等が参画しやすくする

STEP 2

備蓄品選びに、介護・育児等を担うケアをする人の視点を反映する

STEP 3

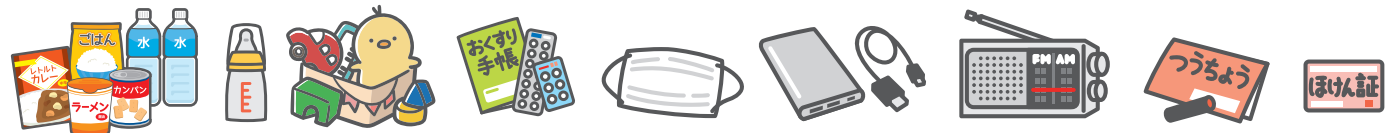
防災会議や審議会、自治会、PTA等で、女性など多様なリーダーを増やす

災害・復旧・復興時に男女や多様な立場の住民が協力して取り組めるよう、日頃から家庭や職場、地域での男女共同参画と多様性を進め、支えあう地域づくりが必要です。

まずは始めよう！ いつ起こるかわからない災害に備えて平時からしておくこと

●それぞれのニーズに応じた備蓄・持ち出し品

被災後の数日間を避難先で過ごすことを想定して準備をしておきましょう。

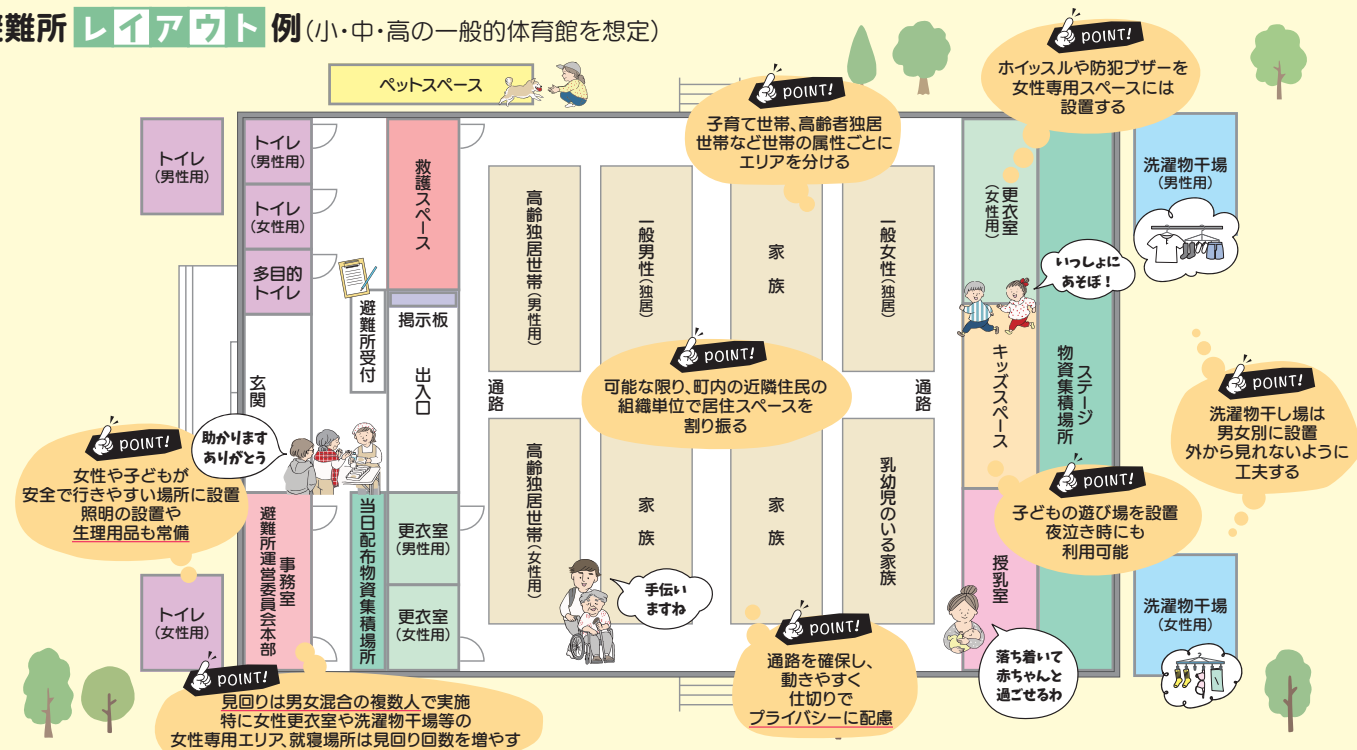


●防災訓練や学習会の実施・参加

昼間と夜間、平日と休日では避難する人も避難の仕方も異なります。性別や年齢、国籍等さまざまな住民が参加する実践的な訓練等を行いましょう。訓練では、性別や年齢等で役割が固定されないよう意識し、避難に支援が必要な人たちが安全で確実に避難できるように誘導や介助を工夫しましょう。

多様な視点を取り入れた安心安全な避難所づくり

避難所レイアウト例 (小・中・高の一般的体育館を想定)



大規模災害時は住民主体の避難所運営が必要です。

みんなが安心して過ごせる避難所運営

1 自主運営組織に多様な立場のリーダーを配置

- 避難所責任者や各班のリーダーに、男女双方を配置します。
- 子育てや介護中などの人の代表を決めて、多様なニーズを運営に反映します。

2 みんなで共同作業

- 「物資係は男性、炊き出しは女性」など、性別で役割を決めず、共同で作業を進めます。
- 様々な団体と連携し、災害時のボランティア支援を積極的に活用します。

3 物資のニーズ把握と配布

- 女性用品(生理用品、下着等)のニーズ把握係には女性を配置、配布方法も工夫します。

4 暴力防止・安全の確保

- 明かりの消えた夜間や、ひとけのない場所では犯罪や性暴力が増える恐れがあります。警察官や自警団による見回りが必要です。防犯ブザーを持ち、複数で行動しましょう。
- 被災や避難生活など、生活環境の激変によるDV、セクハラ、虐待などの深刻化を防ぐため、相談窓口の案内を掲示するなど暴力を許さない環境づくりに努めましょう。

みんな防災活動 地域の防災活動で、男女が共に参画する仕組みをつくるためには？

1 防災以外の地域活動と結びつけてみよう

子供会やPTAなどと連携し、祭りや運動会などの楽しいイベントと結びつけて防災訓練・学習会を行うと、より多くの人に参加してもらえます。

2 自主防災組織の活動を見える化しよう

防災訓練・学習会に女性を含め多様な人の参加を促し、参加した人たちが運営メンバーとして参画しやすいように、ホームページやSNSでメンバーや活動内容を紹介するなど、組織の見える化を図りましょう。女性防災リーダーの育成も大切です。

3 組織のルールを決めよう

意思決定の場や計画の段階から女性が参画することが重要です。責任のある立場を男女双方が担う体制、役員の男女比の明記などをルール化して参画しやすい組織の仕組みをつくりましょう。

4 他分野で活動している女性を巻き込もう

民生委員や子育て・福祉等の分野で活動している女性は、活動を上手く進めるためのノウハウを持っています。既に実施している活動に防災をつなげ、協力して進めましょう。